



住民が夢を抱き交流の輪が広がるまち

新三原市合併記念号

三原駅から
空港までの
直通モノレール
光ファイバー整備で
市内通話の無料化
若者と高齢者が交流できる
文化施設
既存の祭りなどを発展させて、
全国から来てもらえる祭りを作る
お年寄りが不便を感じない
行政サービス
子どもの個々の能力を
引き伸ばせる指導(環境)

本郷

大和~三原直行バスなど、
交通網の充実
全国で一番税金の安い
まちづくり
空港を核に市街地を形成
三原のタコと大和の米で、
おいしいタコ飯を作る
公立大学などの誘致
農業や農園を市民で
活用できるイベント

大和

東城線(恵下谷)の改善
久井をベッドタウンに
加工業者と連携して
地元農産物を活かす
学校・保育所給食の地産地消
四季を通じた観光スポット
(楽しむ・雇用・交流)
地域ぐるみで子育ての
出来る環境
三原独自のリサイクル作戦

久井

ワンコインバス(100円)
の運行
乳児医療費無料化
空き店舗のチャレンジ出店
市民と行政が話し合う
機関
スローフードの実践
マリナーの充実
(海岸線の有効利用)
高齢者を活用した
まちづくり

三原

迎笑決

これがいいのだ! みはらの未来!?

新しいまち「みはら」の夢を語る会

「こんな意見が
出ました。」

(社)三原青年会議所では、これまで時代の変化と共に「瀬戸のインターチェンジ」「インターフェイスみはら」「ニューグラビティみはら」「コラボレーションシティ21」と、ビジョンを発表してきました。

その活動の中で「地方分権整備法」の施行などにより、地域主権型社会への変革が求められたことを受けて、(社)三原青年会議所が、いち早く行動を起こしたのが1999年に提案した2市3町の合併案「小早川市構想」です。それから6年間、様々な事業・イベントを通じて市民・行政・企業に合併後のまちについての提言を唱え、ついに3月22日「新三原市」の船出の時を迎えることとなりました。

そこで本号では、今までの取り組み内容をまとめたものと、本年度1市3町を巡って行われた「新しい「みはら」の夢を語る会」で出た、「新三原市」に望む各地域におられる住民の皆さんの、意見の一部を紹介いたします。

(社)三原青年会議所、
合併問題への取り組み年表
(23面をご覧ください。)

みたが きいたが

瀬戸内海には穏やかな海と、島々の重なり合っている風景に、四季を通じて楽しませて頂いている。また、それに対して臨海部には近代化した街並みや、工場群が多いという二面性がある。その瀬戸内海の中心にある、我がまち「み

はら」はこの三月に本郷町・大和町・久井町の三町と合併をおこない「新三原市」になる。思えば、地方分権法の制定から始まった地域再編の流れの中で、「みはら」も合併の必要性が問われるようになった。そこで、住民自らが主体となって、新しいまちについて模索してきたのが「広域まちづくり研究会」「住民による合併を考える会」である。市民一人ひとりが諸問題に危機意識を持ち、傍観するの

ではなく行動していった結果が一市三町の「新三原市」に繋がったのだ。そして、いよいよ「新三原市」の方向性を定めることとなる。市長選挙・市議会議員選挙の時がやってくる。しかし、今のまちを見てみると、市民の関心が薄れているような気がしてならない。次世代の子どもたちに繋げるため、新しいまちが私たちにとって、住みやすいまちとなるために、投票に行くことも市民の責務のひとつではない

だろうか。三原市民いろいろな立場の人が「自分のまち」を愛する心を持ち、共に知恵と力を集めてゆくこと。これからのまちを左右するのは行政ではなく、私たち市民であることを忘れてはならないような気がする。

